

青翔運輸/全体研修



DR使い安全意識強化

【埼玉】青翔運輸（古谷隆業を含めドライバーや管理者の社長、埼玉県杉戸町）は11月17日に開催した全体研修で、交通安全に対する意識強化を図った。ドライブレコーダー（DR）による実際の事故の映像を視聴することで、改めて事故の悲惨さなどを確認するのが目的。グループ企業を含めドライバーや管理者ら100人ほどが参加した。

長森紀紘・交通安全アドバイザーが「追突事故の実態を知ると追突の落とし穴と防止のポイント」をテーマに講演。DRによる追突事故事例などを紹介し、安全運転の徹底を促した。

グループ企業を含めドライバーや管理者ら100人ほどが参加

また、安全品質環境部の中野泰之部長が自社で5月以降に発生したヒヤリ・ハット事例などを、DRを使って確認した。

（谷本博）

した。同社は10月にDRとデジタルタコグラフが連動した車載システムに全車70台を切り替えたばかりで、事故はそれ以降ゼロを継続している。

古谷社長は「年2回、この

全体研修会でしつこく安全運転の周知を図っているが、軽微な事故が無くならない。新人ドライバーも入ってくるため、初めての人がいるものの、大半の人は何度も聞く内容になる。だが、ドライバー本人のためにも今後も継続して安全対策を徹底させたい」と話した。